

室や子育て中の女性も利用できる室内トイレを整備したい。



改修計画がある池野駅舎

問 5年間のプロジェクト事業推進後の姿は、民間に移行して予算額は減少するのか。

答 地方創生推進交付金は5年間、継続して安定して支援する仕組みであり、5年後は交付金に頼るのではなく、徐々に事業収益をあげ自立できることを目指しており、予算額は減少していく。

問 「山のふもと水さらら」のウェブサイトの管理体制は。

答 ネット販売の経験がある販売組合の店長が中心となり、農家と相談をしながら毎週日曜日までに注文を締め切り、火曜日に発送するルールとなっている。



発送作業する販売組合員さん

問 無人で貸し借りが可能なレンタサイクルの管理とナビアプリのできない人の対応策は。

答 現状は道の駅池田温泉や池田町役場は職員が有人管理しているが、駐輪場に分かり易い表示板を設置して

無人でも支障がでないように整備していく。ナビアプリの使用有無にかかわらず、観光掲示板は観光面の魅力発信から検討していきたい。

養老鉄道存続特別委員会

【3月開催】

問 新法人の設立に伴う負担割合と見通しは。

答 10年間の事業改善計画では、毎年の赤字額は6億5000万円から7億円である。沿線7市町は財政規模の違いもあるが、仮に均等負担となれば1億円から1億2000万円となり、引き続き協議していく。

問 赤字額を減らしていく課題として人件費の削減があるか。

答 養老鉄道の人件費は、近鉄（株）名古屋の平均額を基準としており、実質額の

超過分は近鉄が負担している。第三種となる新法人では改善計画で社員のプロパー化を進めるが、少しでも前倒しをして人件費削減の交渉をしていく。

【6月開催】

問 沿線7市町の財政規模の違いはあるが、全て均等割で負担するのか。

答 4町側からの主張として



養老鉄道支援の輪を広げる清掃活動

完全な均等負担割りではなく、新法人に派遣する場合の職員数や人件費は、財政規模の大きい3市側で負担して欲しいと強く主張しているが、検討課題となっている。

問 養老鉄道の車両は老朽化し、車両色も地味である。ほかの鉄道のように魅力・愛着が持てるデザインにできないのか。

答 以前から近鉄側には活性化協議会及び議長会で車両更新などの依頼をしているが、車両の長寿命化の方針と将来的にランニングコストを減らす目的がある。車両色や図柄への変更には多額の費用を要し困難であるが、今後の研究課題として検討する。



車両色が地味と感じる養老鉄道